

いなべ市新しい学校づくり推進ビジョン

平成 26 年 2 月 17 日

いなべ市新しい学校づくり推進委員会

目 次

「いなべ市新しい学校づくり推進ビジョン」策定にあたって・・・・・・・・ 1

いなべ市新しい学校づくり推進ビジョン

1 いなべ市の目指す小中一貫教育・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

2 いなべ市の小中一貫教育の概要・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

3 小中一貫教育の形態・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

4 いなべ市新しい学校づくり推進組織・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

5 小中一貫教育推進スケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

いなべ市新しい学校づくり推進委員会名簿

「いなべ市新しい学校づくり推進ビジョン」策定にあたって

平成23年3月11日、東日本大震災という未曾有の事態に直面し、これからのいなべ市を担っていく子どもたちに、どのようなメッセージを送り、どのような力を育んでいくのか、改めて教育の在り方を問い直す契機にするべく、いなべ市教育委員会では今後の「いなべの教育」の3つの方向性を打ち出しました。

1. 人の指示を待つのではなく、自ら感じ行動することで臨機応変に困難を乗り越える、感性や決断力・実行力の育成、つまり、不確実な未来を「生き抜く力」(豊かな心、確かな学力、健やかな体)、“智”を育む教育の推進
2. 力を合わせれば、想定外のことで乗り越えられる「生き合う力」の大切さを自覚し、“絆”を結ぶ教育の推進
3. 多様化する価値観の中で、自らの果たすべき役割を主体的に考えながら、それぞれの願いや思いを大いなる夢へと紡ぎ上げ、その実現に向かって挑戦する意志、周囲に働きかける意欲、すなわち、社会の創り手として未来を「生き拓く力」、“志”を育む教育の推進

いなべの子どもたちの多くは、「将来の夢や目標」を持ち、「最後までやり遂げた喜び」を経験しているというデータがあります。また、「失敗を恐れず挑戦しようとする子ども」「学校生活に満足感を持って生活している子ども」「自分には良いところがあると感じている子ども」(自己肯定感)の割合は全国平均を大きく上回っています。これは、目の前の子どもの姿を出発点とし、「一人ひとりを大切にした授業づくり・集団づくり」と「地域に根ざした教育活動」に、学校・地域が一体となって取り組みを積み重ねてきた教育の成果であると考えられます。

しかし、近年の子どもたちを見ていると、社会の激しい変化の波に翻弄され、本来あるべき姿を見失っている様子がうかがえます。とりわけ、人間関係を築く力やコミュニケーション能力の低下と、それに基づく人間関係の希薄化という循環は、いなべ市の子どもたちにとっても大きな課題であると言わざるを得ません。また、学校生活に対する満足度は高いものの、確固たる自分が持てずに周りに流されたり、集団から一人になった時にひ弱さを露呈してしまうなど、個の確立ができていない姿も見受けられます。

これらの課題を克服するためには、すべての子どもの発達を保障する途切れのない支援が欠かせません。特別支援教育から始まった小中学校の連携をより深め、一致した方向性のもとで、地域とともに特色ある教育を展開するという新たな学校づくりへと踏み出すことが必要だと捉えています。

一方、近年の少子化の進行により、学校の小規模化が進み、複式学級を有する学校が生じてきています。そのような状況の中、平成25年、いなべ市立小学校適正規模検討委員会は、複式学級の解消、小規模校の解消、過密学級への対応といった3点の提言を行いました。とりわけ、複式学級の解消は急務であるとの認識から、藤原中学校区小学校の再編をきっかけに、「生き抜く」「生き合う」「生き拓く」の3つの力を育むことができる望ましい教育環境の実現と、「いなべの教育」の継続・発展、理想の追求のために、全小中学校における小中一貫教育導入への検討を始めました。

いなべ市では中学卒業時の「目指すべき子どもの姿」を明確にし、その姿を学校・家庭・地域が共有し、現在の小中連携をさらに推し進め、小学校から中学校までの義務教育に責任を持ち、「9年間の学びと育ちをつなぐ教育」を推進していきます。

このたび、いなべ市にふさわしい小中一貫教育を進めるため、「いなべ市新しい学校づくり推進ビジョン」を策定しました。当ビジョンの実現と具現化に向けて、次年度からの「中学校区新しい学校づくり協議会(仮称)」においては、教職員及び保護者・地域関係者との意見交換を通じて、各中学校区の特色や課題等を十分に踏まえた新しい学校づくりの内容を協議していくことになります。また、市教育研究会を中心に教職員の英知と総意を結集し、小中一貫教育への移行に向け、教育課程等の研究・開発に着手していくことになります。市民の皆様からは、いなべ市総ぐるみで子どもたちへのご支援をいただけたら幸いです。

平成26年2月17日

いなべ市新しい学校づくり推進委員会

いなべ市新しい学校づくり推進ビジョン

平成 26 年 2 月

1 いなべ市の目指す小中一貫教育

いなべの明日を担う心豊かでたくましい子どもを育む小中一貫教育

～ 紡ごう子どもの幸せ 結ぼう地域の絆 高めよういなべの教育 ～

子どもたちの「豊かな心」「確かな学力」「健やかな体」を育み、主体的に自らの未来を切り拓く力や豊かな人間関係を結ぶ力など一人ひとりの可能性を最大限に引き出すためには、激しい社会の変化や子どもたちの心身の発達状況の変化に的確に対応した教育を進めることが必要です。そのためには、小学校 6 年間と中学校 3 年間で義務教育 9 年間という大きなまとまりで捉え、子どもたち一人ひとりの資質や能力・個性を十分に発揮させる効果的なしくみが求められています。

そこで、いなべ市では、これまで取り組んできた小学校間の連携（小小連携）や「保 - 小・小 - 中」の校種を越えた連携教育の成果の上に立ち、新しい学校づくり、すなわち、

「小学校と中学校の教職員が一体となり、家庭・地域との連携・協働のもと、9年間を見通した連続性・一貫性のあるきめ細やかな小中一貫教育」

の導入を検討していきます。

ただし、小中一貫教育はあくまで教育を考える上での手段であり、その目的は、より質の高い教育を実現することで子どもたちの幸せを保障することにほかなりません。それは、保護者や地域の期待に応えることであり、いなべの教育を継承し、さらに発展させることでもあります。また、地域とのつながりを深める新しい教育の展開は、子どもたちの故郷への思いを醸成し、いなべの人づくり・地域づくりに寄与するものであると考えています。

小中一貫教育のねらい

- (1) 9年間を見通した連続性・一貫性のある学習指導・生徒指導・生活指導を展開することにより、児童生徒の「生き抜く力」(豊かな心・確かな学力・健やかな体)を育成する。
- (2) 幅広い異年齢集団による多様な活動や地域との交流活動により、豊かな人間性や社会性、人と「生き合う力」、「絆」を結ぶ心を育む。
- (3) 地域に根ざした特色ある学校づくりを推進することで、自分の生まれ育った故郷に自信と誇りを持ち、いなべを愛する心、「生き拓く力」を育むとともに、未来を創る“志”に満ちた人材を育成する。
- (4) 中学校区の教職員が連携し、児童生徒の理解を深め、個に応じた指導や支援を充実することにより、一人ひとりを大切にする教育の充実を図る。また、中学校区の教職員が相互に交流を深めることにより、教職員の資質と指導力の向上を図る。
- (5) 中学校区を単位とした地域・保護者連携を進め、学校・家庭・地域が一体となった教育環境を構築する。

* 子どもの教育は、義務教育 9 年間で中心に乳幼児期から就労まで連続しており、各々の時期において教育の充実を図ることは勿論、校種間及び関係機関の連携を強化することで、より効果的な教育活動の展開を図ることができます。したがって、小中一貫教育も小中学校のみの教育として捉えるのではなく、途切れのない教育体制の中核に位置するプロセスでなければなりません。

2 いなべ市の小中一貫教育の概要

(1) 全中学校区での小中一貫教育の実施

いなべ市では、従来から中学校区の小中学校において、児童生徒の実態、地域の状況等を踏まえた小中連携の取り組みを進めてきました。その成果を活かし、平成30年度から全中学校区での小中一貫教育を実施します。

(2) 義務教育9年間を見通した特色ある教育活動

小学校と中学校の各指導内容を9年間のまとめりとして捉え、それぞれの中学校区において、めざす子ども像を共有した上で、連続性・一貫性を重視した特色ある教育課程を編成します。コンセプトは、「学びのつながり」「仲間とのつながり」「未来へのつながり」の3つです。

学びのつながり ~ “生き抜く力” を育む ~

授業スタイル・ルールの共有

- * いなべ市教育研究会が中心となって作成した授業スタイル・ルールの一層の定着を図ります。
- * 小中学校の教職員による、互いの良さを取り入れた授業研究、授業改善の取り組みを進めます。

9年間を見通した教科教育の充実

- * 各中学校区において、児童生徒に「生き抜く力」を育むことを目指して、創意工夫を活かした特色ある教育課程を編成します
- * 言語活動、理数教育、英語教育（外国語活動）等の充実を図り、学習意欲を高め、個性を活かす教育を展開します。

小学校高学年での一部教科担当制の導入

- * 小学校での一部教科担当制や小中学校の教職員による TT 授業を導入することで、小中学校の接続（学級担任制 教科担任制）をスムーズにするとともに、専門性を活かした教科指導により学習意欲の向上を図ります。

体力向上の取り組みの充実

- * 全学年での体力テストの実施とその活用を図ることで、自らの健康や体力に関心を持ち、運動への意欲を育みます。
- * 運動することの楽しさを感じ得るような教育活動を創出し、運動の日常化を進めます。

「学びの手引き」・「家庭学習の手引き」の作成

- * 教科の目標や授業の進め方、評価方法、学習計画、家庭学習などについて、小中学校が一貫した考え方で提示することにより、前向きに授業に臨み、積極的に家庭学習に取り組むような自ら学ぶ力を育成します。

仲間とのつながり ~ “生き合う力” を育む ~

9年間を見通した感性を育む教育の充実

- * 「感性を育む教育課程」を編成します。
- * 教材、教具、指導案等を共有するシステムを構築します。

園児・小中学生の交流活動、合同活動の充実

- * 園と小学校の体験交流活動や、小中学校の合同授業・合同行事、異学年交流など、園児・小中学生の計画的・継続的な交流を実施し、子どもたちの自尊感情を高めるとともに、豊かな人間関係を結ぶ力の育成を図ります。

新教科「コミュニケーション科(仮)」の創設

- * ICT 機器の活用を通して、基本的な情報処理能力を身に付けるとともに、情報モラルをはじめとする道徳的なマナーや思いやり、規範意識を育みます。
- * 教育活動の中にソーシャルスキルトレーニング (SST) や構成的グループエンカウンター (SGE) の手法を取り入れることにより、コミュニケーション能力の育成を図ります。
- * 友だちと遊ぶ (交流する) 時間や場所を積極的に確保したり、マナーや接遇についての体験活動を充実させることを通して、人間関係を築く力や社会性を育みます。

一人ひとりを大切にせる教育の充実

- * 中学校区単位のケース会議を開催したり、保小中の連携をもとにした個別の教育支援計画 (「いなべ市ハピネスファイル」) を作成するなど、個別の支援を必要とする子ども一人ひとりを大切にせる教育の充実に努めます。

「生徒指導の手引き」の作成

- * 問題行動への適切な対応や未然防止、関係機関との連携、危機管理など生徒指導に関して、小中学校の教職員が連携して一貫した指導を行います。

未来へのつながり ~ “生き拓く力” を育む ~



新教科 (「未来いなべ科(仮)」) の創設

- * 各中学校区 (各校) の特色を活かした新教科を創設します。
- * 新教科では、いなべ市の人・自然・歴史・文化・産業など地域の教育資源を活用した学習を通して、地域社会の一員としての自覚を持ち、「故郷いなべ」を愛し、よりよい未来を創ろうとする主体的、実践的な態度を育みます。

9年間を見通したキャリア教育の充実

- * 発達段階に応じた到達目標や学習内容を明らかにし、組織的・系統的なキャリア教育を推進します。
- * 働くことや職業についての認識を深め、確かな社会性を身に付けられるよう、学校・家庭・地域・行政等多様な主体との連携による「生き方を考える教育」を推進します。

地域における体験的な学習の充実

- * 保護者や地域の方々の協力のもと、自然体験や社会体験、ボランティア活動などに取り組むことを通して、地域から学び、自己の進路や生き方についても考える契機とします。

(3) 小中学校教職員の連携・協働

学校区での教職員の連携・協働

小中学校の教職員がともに授業研究に取り組んだり、中学校の教職員が教科の専門性を活かして小学校の授業を担当するなど、教職員の継続的な連携・協働を進め、互いの教育内容の理解や指導力の向上を図ることにより、発達段階に応じた指導や小中学校の円滑な接続を進めます。

情報共有システムの構築

中学校区内の小中連携はもとより、小小連携を日常的に保障するため、市内ネットワークシステムを構築します。このことにより、各種教育財産の共有化を進め、教育の質を高めるとともに、情報セキュリティの向上を図ります。

(4) 学校・家庭・地域が一体となった教育環境づくり

中学校区を単位とした地域ぐるみの教育活動

地域の方々の学校運営への参画や学校から地域への積極的な働きかけを通して、中学校区を単位とした地域ぐるみの教育ネットワークを構築するとともに、地域文化を継承し、地域の学校としての役割を担います。

地域による学校支援の推進 ~いなべ学援隊~

今後、学校では、教育内容の充実や教職員の子もたちと向き合える時間の確保に向けて、地域の教育力の活用による学校支援が求められます。地域の人材がボランティアとして学校の教育活動を支えるとともに、その活動が円滑に推進されるよう支援します。また、地域の人材の学校運営への参画を促進します。

3 小中一貫教育の形態

図 1

(1) 小中一貫教育の2つの型

いなべ市では、中学校区単位で次の2つの型の小中一貫教育に取り組みます。

施設分離型：北勢中学校区（4小学校+1中学校）

員弁中学校区（2小学校+1中学校）

大安中学校区（4小学校+1中学校）

施設一体型：藤原中学校区（1小学校+1中学校）

(2) 小中一貫教育研究校の指定

小中一貫教育の平成30年度完全実施に向けて、平成27年度から研究指定校区を設け、その中学校区内の小中学校を小中一貫教育研究校に指定し、研究を推進します。

平成25年度：新しい学校づくり事務局ワーキンググループ会議において研究開始
いなべ市新しい学校づくり推進委員会発足

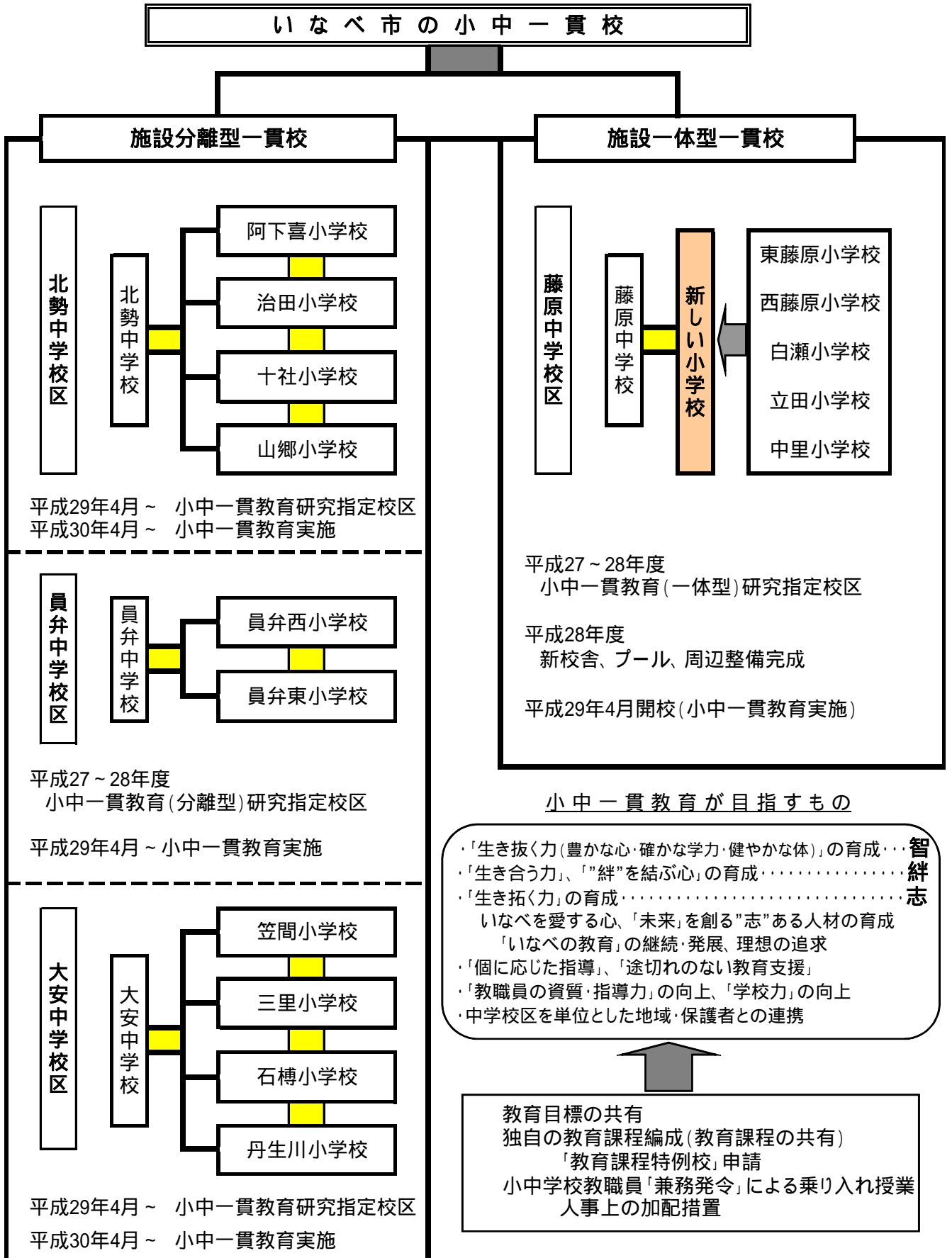
平成26年度：中学校区新しい学校づくり推進協議会発足

平成27年度：員弁中学校区、藤原中学校区を研究校区に指定

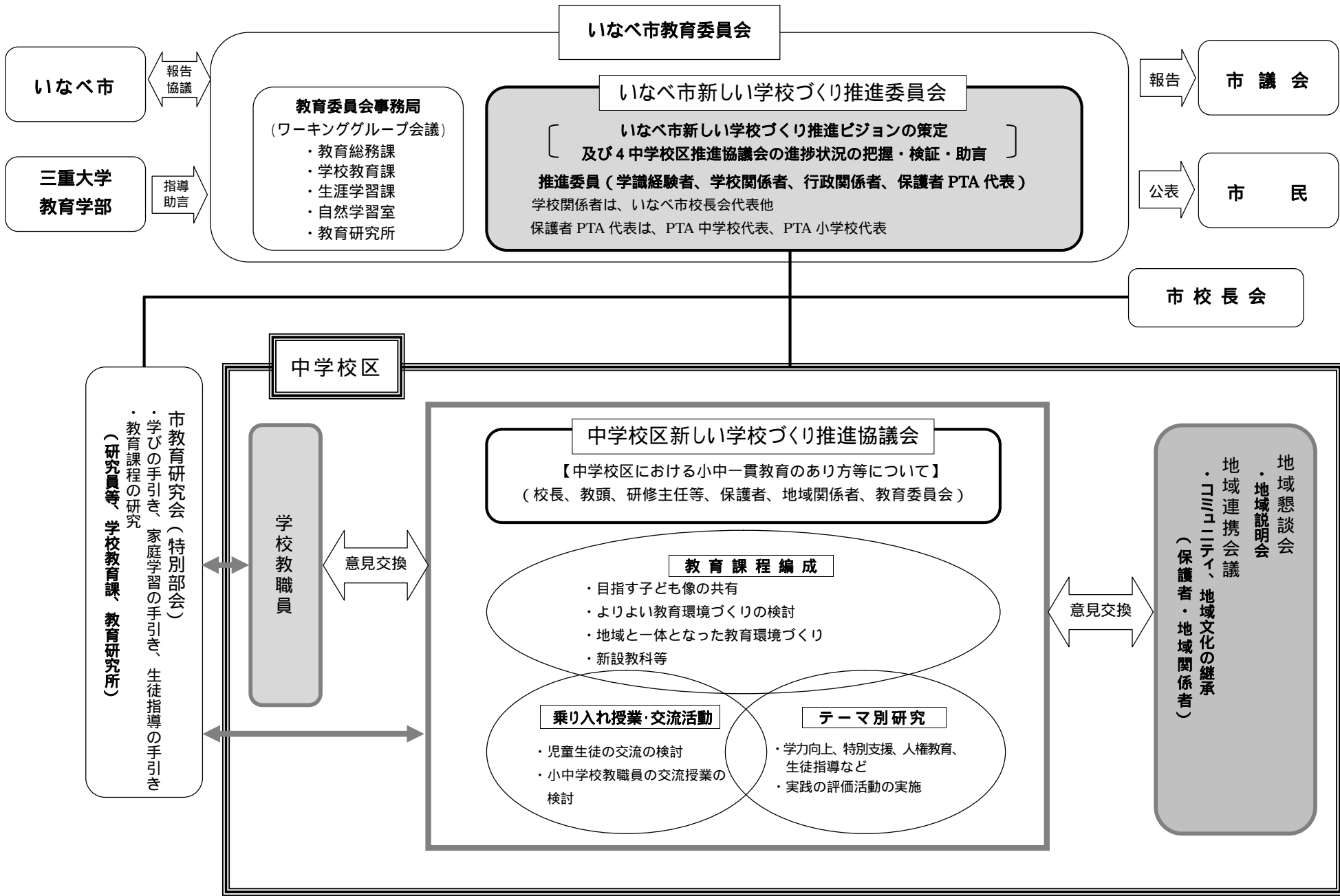
平成29年度：員弁中学校区において小中一貫教育（施設分離型）開始、研究発表
藤原中学校区において小中一貫教育（施設一体型）開始、研究発表
北勢中学校区、大安中学校区を研究校区に指定

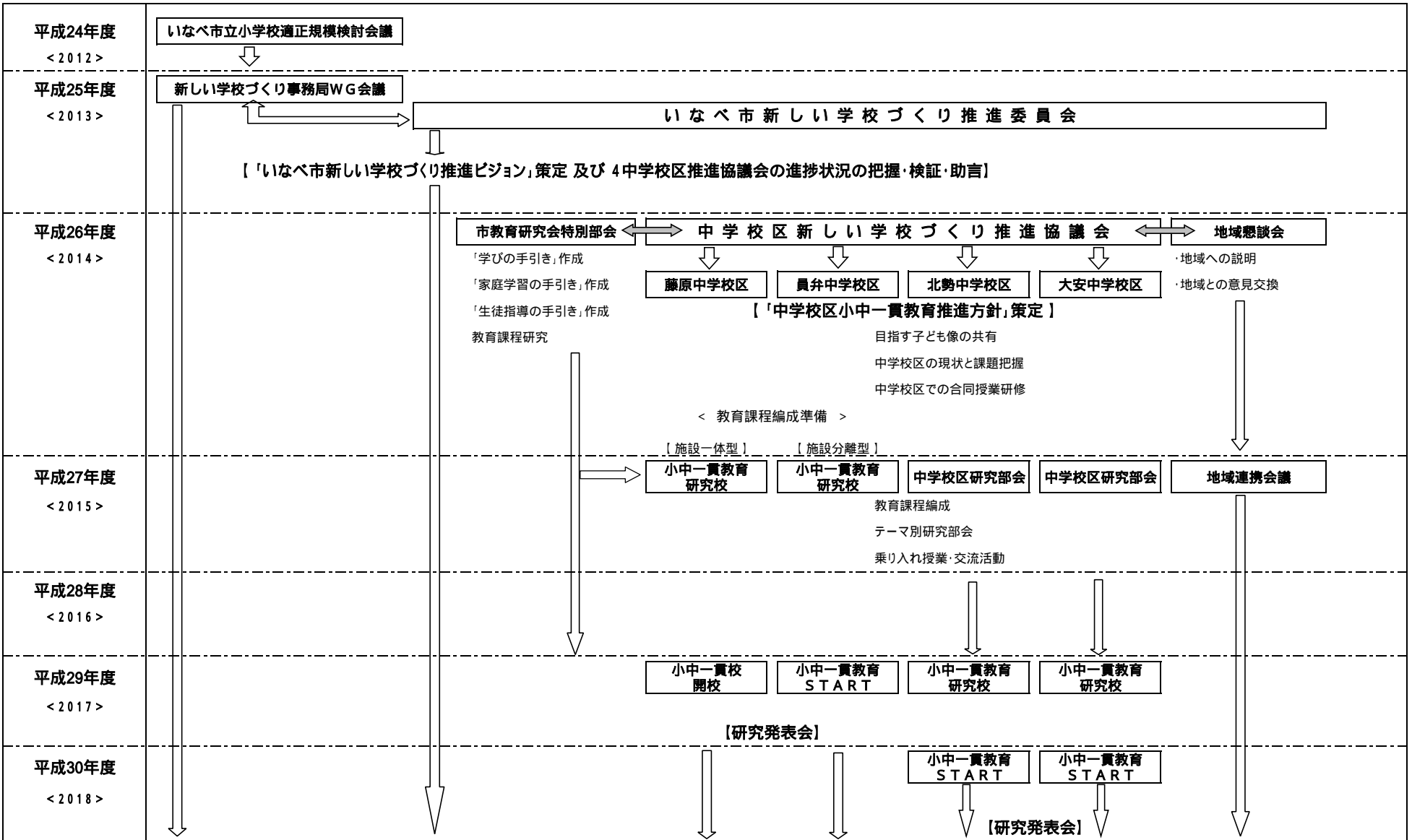
平成30年度：北勢中学校区、大安中学校区において小中一貫教育開始、研究発表

いなべ市新しい学校づくり～小中連携教育から小中一貫教育へ～



4 いなべ市新しい学校づくり推進組織





いなべ市新しい学校づくり推進委員会名簿

(敬称略)

選出区分	氏 名	役 職 等
1 学識経験者	森脇 健夫	三重大学教授
	織田 泰幸	三重大学准教授
2 学校関係者	小林 共子	いなべ市校長会 会長
	土岐 昌男	中学校校長会 代表
	小寺 光紀	校長会北勢校区代表
	藤本 孝徳	校長会員弁校区代表
	水貝 明子	校長会大安校区代表
	児玉 勝彦	校長会藤原校区代表
	山下 秀人	小学校教頭代表
	井上 征樹	中学校教頭代表
	三輪 美紀	いなべ市教職員代表
	近藤 恵里子	いなべ市教職員代表
3 行政関係者	吉野 睦	副市長
	岡 正光	企画部次長兼政策課長
	佐野 謙二	健康子ども部子ども家庭課長
4 その他教育委員会が 適当と認める者	渡部 正利	PTA中学校代表
	児玉 由布子	PTA小学校代表(母親代表)